

業務対応表

環境研究センターでは、事業方針に基づき、調査研究等に取り組んでいる。

令和4年度の調査研究業務は以下のとおりであり、関連する報告書には、対応する番号を示している。

研究業務

番号	業務名	業務内容	担当室
1-1	光化学オキシダントの高濃度発生メカニズムに関する調査・研究	光化学オキシダントは、環境基準の県内達成率が0%であり、高濃度になるとスモッグ状になり健康被害等を生じることから、高濃度事象の減少に向けた基礎資料を得ることを目的に、様々な角度から調査研究等を進める。 <オキシダント生成の寄与物質の監視> ・発生源近傍である当センターで、オキシダント生成の寄与物質の監視を行い、個々のオゾン生成能からオゾン生成の寄与率を推定する。 <高濃度事例等解析> ・常時監視データ及び気象データを用いて、光化学スモッグ注意報が発令された典型的な事例等について解析を行う。 <オキシダントの高濃度発生メカニズムの検討> ・別途監視を行っている有害大気汚染物質の採取試料（キャニスターによる採取）において、これまで分析してこなかった寄与物質も含めて、分析の検討を行う。 ・高濃度発生メカニズムの検討を行うに先立ち、キャニスター採取による地点毎の成分変化を把握する手法の検討を行う。	大気騒音振動研究室
1-2	印旛沼・手賀沼の水質汚濁メカニズムに関する調査・研究	閉鎖性水域等の水質改善及び水質汚濁防止に向けて、様々な角度から調査研究等を進める。 <有機汚濁物質に関する調査> 沼内の有機汚濁物質について調査し、COD等の環境基準超過の原因及びここ数年CODが高止まりしている原因の検討を行う。 ①印旛沼において、水質の連続測定等を行うとともに、植物プランクトン増殖プロセスについて調査を行う。 ②面源負荷（市街地、道路等）の原単位を算出するための調査を行う。 <水質の長期変動の解析> 水質、気象、プランクトンによる内部生産の各データの関連性について解析を行う。	水質環境研究室

基盤業務（調査）

番号	業務名	業務内容	担当室
2-1	有害大気汚染物質に関する調査	大気汚染防止法に基づく有害大気汚染物質のうち、優先取組物質等について、試料採取及び分析等を行う。（大気保全課依頼） また、一部の物質について、未把握な排出源による高濃度の発生が確認されていることから、測定結果や気象データの解析等を継続して行う。	大気騒音振動研究室
2-2	降下物の調査	<大気降下物調査（酸性雨調査）> 大気汚染物質の湿性沈着及び乾性沈着の実態を把握するため、湿性降下物及び乾性降下物の捕集及び成分分析等を行う。 <降下ばいじん等の調査> 降下ばいじんの状況を把握し、大気汚染防止対策の基礎資料を得るため、大気保全課、県内の市が行っている調査等において、発生源の推定に必要な成分（分析項目）について ICP-MS 装置による金属分析を行う。 また、苦情等の原因の解明に取り組むため、苦情等の要因及びその調査方法について検討するとともに、必要な調査を実施する。	大気騒音振動研究室

番号	業務名	業務内容	担当室
2-3	微小粒子状物質に関する調査	①国が示した事務処理基準による常時監視の一環として、市原岩崎西、勝浦植野及び富津下飯野の3地点で捕集した微小粒子状物質について、四季×24時間×14日の成分分析調査を実施する。(大気保全課依頼) ②地域汚染等による高濃度事例が生じた場合、自動測定機のテープ紙を分析すること等により、高濃度要因の解析を行う。	大気騒音振動研究室
2-4	化学物質環境実態調査[エコ調査]	環境省の選定した化学物質について、環境中の濃度の実態を把握するため、試料採取や分析を行う。(環境省委託(大気保全課経由))	廃棄物・化学物質研究室
2-5	廃棄物処分場の適正管理に関する調査	市町村等による一般廃棄物最終処分場の適正管理の確保のため、電磁探査等の物理探査や浸出水・発生ガスの測定等の調査を行う。	廃棄物・化学物質研究室
2-6	環境放射能水準調査	県内7ヶ所におけるモニタリングポストによる空間放射線量率の測定、雨水中の全β放射能測定、大気浮遊じん、降下物等の核種分析等を行う。(原子力規制庁委託(大気保全課経由))	大気騒音振動研究室
2-7	環境放射能に関する調査	①大気中の放射線量調査 ②水質・底質における環境放射能調査	大気騒音振動研究室、 水質環境研究室
2-8	地盤沈下に関する調査	地盤沈下対策の強化を検討するための基礎資料とするため、水準点測量、観測井、揚水量のデータを収集し、地下水の汲み上げや天然ガスかん水の採取等による地盤沈下への影響を把握する。 ①水準点の変動量を把握する。 ②観測井における地下水位、地層収縮量を把握する。 ③地下水涵養・湧出水調査を行う。 ④InSAR(干渉合成開口レーダー)による地盤変動観測技術を活用した調査を行う。 ⑤地震動等を観測し、データの整理・蓄積等を行う。 ⑥地盤沈下関連データベース 水質保全課から提供される地下水揚水量実態調査結果や天然ガスかん水の採取量等に関するデータの整理・蓄積等を行う。 ⑦地盤変動量、観測井、揚水量の各データを解析する。 ⑧九十九里地域における地盤沈下の将来予測及びその変動の結果が津波浸水に与える影響の検討を行う。【新規】	地質環境研究室
2-9	地層の液状化・流動化に関する調査	地盤沈下対策を検討するための基礎資料とするため、液状化・流動化の起こりやすい地質構造についてデータの取りまとめと解析を行う。	地質環境研究室
2-10	地質汚染に関する調査	観測井の水位・水質、地層中の透水構造を調査し、地下水の流動方向及び汚染物質の挙動を把握した上で、浄化対策の検討を行う。	地質環境研究室
2-11	上ガスに関する調査	天然ガスの地表への噴出(上ガス)が環境へ与える影響の基礎資料とするため、九十九里平野中央部及び九十九里沿岸における上ガスの状況を把握する。 ①九十九里平野中央部における上ガスの分布と噴出状況を把握する。(水質保全課依頼) ②九十九里沿岸における上ガスの分布と噴出状況、水質・底質調査を行う。(水産総合研究センター依頼)【一部新規】	地質環境研究室
2-12	環境学習のためのプログラム開発及び環境情報の提供	気候変動等の各種環境情報や環境に関する調査・研究の進捗状況などを収集する。 その上で、これらの情報を活用し、啓発物資や環境学習プログラム等を作成する。	企画情報室